

「世界遺産と砂防」

—静岡県支部 平成25年度市町長等県外視察の紹介—

◆ 全国治水砂防協会静岡県支部 ◆

1. はじめに

静岡県支部では毎年、土砂災害による被災箇所や砂防関係事業先進地等の県外視察を実施し、会員である市町長に参加していただくことにより、砂防事業や協会の活動を深く理解していただいています。また、支部会員相互の意見交換のみならず、視察先の市町村長との意見交換、地域振興事業の視察を組み込み、災害対応の知見を深めていただくとともに、日々の業務に活用していただいております。

本年6月に世界文化遺産に登録された富士山では、国土交通省富士砂防事務所により大沢崩れ及び南西野溪対策など砂防事業が実施されています。

このため、「世界遺産と砂防の係わり」をテーマに、8月22日（木）から24日（土）の日程で、市町長12名、県・市幹部職員5名及び事務局3名の総勢20名のメンバーにより、世界自然遺産「白神山地」（青森県）を訪れました。

2. 視察の行程及び内容

1日目は、昼過ぎに新青森駅を出発し、白神山地を源とする岩木川の弘前防災ステーション（弘前市）において、国土交通省青森河川国道事務所の盛谷所長ほか事務所の皆様より、弘前・馬淵川防災ステーション、排水ポンプ車・照明車及び国・県・市町村の連携した水防活動の取り組みについて説明をしていただきました。

地域の安全・安心を預かる市町長からは積極的な質問が行われ、災害時の拠点施設、災害対策車



弘前・馬淵川防災ステーション等の説明を聴く



排水ポンプ車及び照明車の説明を聴く

や資材整備の重要性を再認識していただきました。

2日目の午前中は、世界遺産「白神山地」の概要を知るために「白神山地ビジターセンター」（西目屋村）を訪れた後、暗門「ブナ林散策道」を歩き健全に管理された森林の状況を確認しました。

移動途中に建設中の津軽ダムを視察した後、西目屋村の三上参事ほか役場の皆様による世界遺産の保全管理体制等についての研修と、意見交換を行いました。

午後には、岩木山南麓で発生した「蔵助沢土石流災害」のDVDを車中で視聴した後、青森県河川砂防課の後藤総括主幹ほかの皆様より、鳶川火山砂防事業（十和田市）を現場説明していただきました。併せて、青森県砂防発祥の地で、白神山



視察メンバーの集合写真



鳶川及び赤石川砂防の説明を聴く

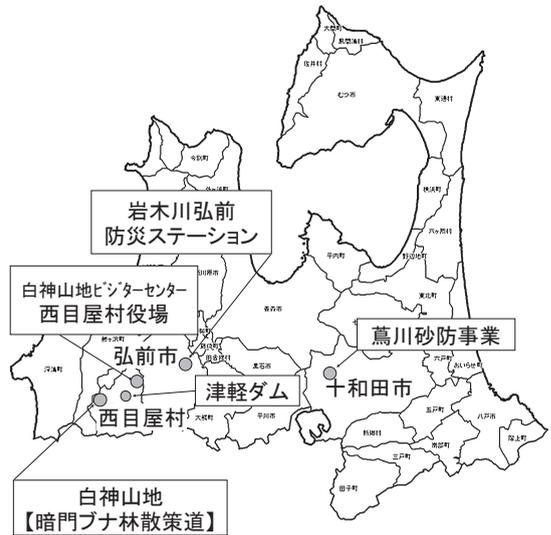


西目屋村との意見交換会

地を源とする赤石川砂防を紹介していただき、世界遺産における環境保全の取り組みを学びました。

3. 終わりに

富士山世界遺産の取り組みでは、「富士山包括的保存管理計画」及び「県行動計画」において、自然災害への対応として「土砂災害（がけ崩れ・土石流）・落石」の施策を掲げ、砂防施設等設置



の推進を行うこととしています。平成28年にはユネスコ世界遺産センターに「保全状況報告書」を提出することから、より一層の取り組みが必要であり、白神山地での砂防事業等の取り組みは大いに参考となりました。

最後に、視察にあたり、説明や資料作成をいただいた、国土交通省青森河川国道事務所、西目屋村役場、青森県河川砂防課の皆様改めて感謝を申し上げます。



鳶川火山砂防（溪流保全工・床固工）